

かわなかの

日常の実験・実験の映像

ぶひろ展

私が出会った表現者たちV

表現することで、私と私たちを探る。かわなかのぶひろの仕事は、そんな探索の旅のようだ。

2022.5.28 [sat.] ⇒ 9.25 [sun.]



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館

開館時間:9時~17時(入館は30分前まで) /水曜休館 /観覧無料 /協力:イメージフォーラム

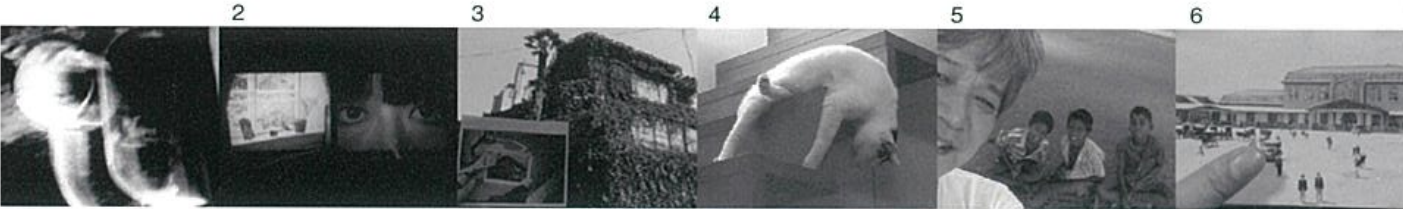
postcard



かわなかのぶひろ KAWANAKA Nobuhiro

1941年東京生まれ。これまでに長短100あまりの実験映画を手がけ、自己のモチーフを真摯に追求する作品を発表する一方、イメージフォーラムの設立を主導するなど、日本の実験映画やビデオアートの胎動期にあって、その発展のために、中心的役割を果たした。80年代は、アメリカ、オーストリア、ヨーロッパ諸国を日本の実験映画プログラムを持って長期間ツアーし、初めて海外に日本の実験映画を本格的に紹介した。また、イメージフォーラム映像研究所や東京造形大学において、新人の育成にも尽力し、教育者としての実績も大きい。「月刊イメージフォーラム」初代編集長。主な作品に「スイッチバック」(1976)、「私小説」シリーズ(87~96)、「映像書簡」シリーズ(1979~/萩原朔美と共作)などがある。

提供 朝日新聞社



1.「私小説」(1987年) 2.3.「映像書簡2」(1980年) 4.「経路(route)」(2015年)
5.「時の繪ふたび」(2017年) 6.「スイッチバック」(1976年)

◎同時期開催

「すべてのものをすてて、わたしはよみがえる。
—生誕135年記念 大手拓次展」

- ◎アクセス
 - 電車：JR前橋駅から徒歩20分
上毛電鉄中央前橋駅から徒歩5分
 - 自動車：関越自動車道前橋ICから車で15分

※広瀬川サンワパーキング(市営P城東)のご利用に際しては、駐車券に割引処理をいたします。



開催中のイベント等は
前橋文学館HPやSNSで
ご確認ください。

Check! ▶



前橋文学館 HP



前橋文学館 Twitter

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によって、開催や内容の変更をさせていただきます。ご来館の際は、事前にホームページをご覧くださいか、お電話でお問い合わせください。

Designed by studio vision Tatsushi Ishiro



萩原朔太郎
大全2022



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町三丁目12-10
TEL.027-235-8011 FAX.027-235-8512
<https://www.maebashibungakukan.jp>